

たろばな 京都大学男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

女子高生・車座フォーラム 2018

※当日欠席があったため、ニュースレター 81 号掲載の車座フォーラム参加人数から変更しています。

12月22日(土)国際科学イノベーション棟シンポジウムホール等にて「女子高生・車座フォーラム 2018」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高生に京都大学の研究者や科学者の仕事を知らせてもらうという企画です。今年で13回目の開催となり、高校生99名、保護者55名の参加がありました。今年度は、午前に大学紹介と女性研究者・卒業生の講演、午後にグループワーク、保護者と京都大学学生との交流会・入試の説明がありました。



今村 博田男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会進行のもと、はじめに、稲葉 カヨセンター長、理事・副学長より開会の挨拶がありました。「京都大学は、『いきいきと輝けるような大学に』という意味を込めて WINDOW 構想の心を持っています。今、京都大学の人々がどんなことをしているのか、京都大学とはどんなところなのか、いろんな方面から知っていただきたい。そして夢と希望をもって、ぜひ京都大学に来ていただきたい。」と話し、最後に「今日一日みなさんにとって、有意義な一日であることを祈っています。」と開会の挨拶を締めくくりました。



次に北野 正雄理事・副学長が京都大学について紹介をしました。WINDOW 構想に掲げる6つの目標をあげ、「野性的で賢い学生を目指してほしい。」と話しました。京都大学の10学部について説明した上で「大学院にいくということを見視野に入れてほしい。4年で終わるのはもったいないので、ぜひ研究をしてほしい。」と述べ、最後に「自分がやりたいこと、行きたいところを自分自身で決めてほしい。大学での女性の活躍が目立っています。ぜひいろんなことにチャレンジしてほしい。」と高校生を激励しました。

引き続き、地球環境学堂の岩谷 彩子准教授が「女性と仕事 ― ロマ/『ジプシー』研究と私」の題で講演を

行いました。岩谷先生は、「古本屋で手に取った『ジプシーの魅力』という本に魅了され、翻訳された人に直接会いに行きました。」と文化人類学との出会いや、「ジプシー」/ロマ移動の歴史、ロマ女性の結婚の早さや結婚時に重視される「処女性」などのロマ社会における女性の地位について説明しました。また、自身が出会ったインドのカールベリヤー女性とトルコのロマ女性2人のダンサーとしての人生やギリシャのロマ女性について紹介しました。最後に、「私自身、育児や家事や研究など、さまざまな制約下で研究を行っています。それでも持続的にフィールドで人々と対話を続けるなかで、カテゴリーを超えた単独の個人に出会い、人との出会いによっていろんな方向にひらかれうる人間のあり方について探求していきたいと思います。」と話しました。



次に、法学部卒業生である高島 菜芭さんが「私と京大の4.5年間」の題で講演を行いました。「1・2回生の時に、国際交流プログラムを通じて様々な人とつながり、3・4年生になると自分のビジョンを探し求めるようになりました。イギリス留学をきっかけにジェンダーに興味を持ち、ロンドンのNGOや東京の国連機関でインターンをする中で、性暴力についてアプローチをしたいと考えるようになりました。」と自身がジェンダーに関する活動をするようになった経緯について話しました。「5年生になると、自分で起業したいと思うようになりました。性暴力で苦しむ人を少しでも減らしたいという思いから、ジェンダーハンドブックを作成し、性的同意の概念を広める活動を始めました。」と述べました。最後に、「自分の興味関心に関係なく、様々な人と対話をして視野を広げてほしい。自分のやりたいこと、夢中になれることを探してほしい。そして自分がやりたいと思ったら、積極的に何事にも挑戦してほしい。」と高校生へメッセージを送りました。

昼休憩後、高校生は希望学部別のグループに分かれ、総合研究8号館とイノベーション棟に移動し、グループワークを行いました。事前に高校生が記入した質問用紙をもとに、学生は受験勉強や学生生活といった実体験を語り、研究生活や専門などについては講師が回答しました。質疑応答以外にも活発な意見交換が行われ、非常に内容の充実したグループワークとなりました。

高校生がグループワークに参加している間、保護者は京都大学学生との交流会に参加しました。稲葉 カヨセンター長の挨拶の後、保護者から学生へ学校生活や学部などについて疑問に思うことを多々質問してもらい、学生が回答しました。

グループワーク終了後は再び全員で集まり、まとめの会を行いました。佐藤 亨男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、それぞれのグループで話し合った内容を報告し、他のグループでの話し合いについて情報共有しました。

続いて、教育推進・学生支援部入試企画課より、平成

31年度学生募集要項についての説明があり、アドミッションポリシーや入試についての説明がありました。車座フォーラム閉会後も、入試企画課と学生が残り、女子高生からの質問に丁寧に対応しました。

今年度のアンケートや昨年度の車座フォーラムの詳細内容は、後日 HP に掲載しますのでご覧ください。



グループワークの様子



文学部



教育学部・経済学部



法学部



理学部



医学部（医学）



医学部（人間健康科学）



薬学部



工学部



農学部



総合人間学部（文系）



総合人間学部（理系）



保護者（京大生との交流）

車座フォーラム参加者の声（保護者・高校生のアンケートより）※一部抜粋

- ・オープンキャンパスに続き2回目の訪問ですが、今日一日でより深く京大のことを知ることができて、大変有意義な一日となりました。
- ・入試関連の話は聞く機会が多いが、大学に入学してからの生活や研究内容の話を実役女子学生から学生目線で聞くことができる機会は貴重な経験になりました。
- ・本人が直接学生に聞くことができたので、今後のモチベーションアップにつながったと思います。
- ・インターネットで調べてもわからないようなことをたくさん聞くことができ、京大に興味を持ちました。研究者というとぼんやりとしたイメージしかありませんでしたが、自ら学び、視野を広げ、人生を豊かにすることが大切なのだと思ふことができました。
- ・好きなことを自由に学べるのがよいと感じました。私も自由の校風のもと、大学教授になるという夢をかなえたいと思います。
- ・グループワークでは、聞きたいことを全部聞けたので満足しています。他県の人とも交流することができ、よい刺激を受け、楽しい時間を過ごせました。

講師・グループ・会場

グループ	氏名	所属	研究分野	会場
文学部	山村 亜希	人間・環境学研究科	歴史地理学、過去の景観復原、城下町・港町・中世都市	総合研究 8 号館 講義室 3
教育学部	桑原 知子	教育学研究科	臨床心理学、心理療法、「もう一人の私」	国際科学イノベーション棟 ミーティングルーム 1
法学部	木村 敦子	法学研究科	民法（家族法）、生殖補助医療と法	国際科学イノベーション棟 ミーティングルーム 2
経済学部	北田 雅	経済学研究科	メンタルヘルス、医療経済学、社会心理学	総合研究 8 号館 演習室 1
理学部	常見 俊直	理学研究科	理学と社会交流、科学コミュニケーション、社会連携	総合研究 8 号館 数理会議室
	朴 昭映	理学研究科	ケミカルバイオロジー、有機化学、核酸化学	
医学部（医学）	加藤 果林	医学部附属病院	手術期感染症、腸内細菌叢、薬物血中濃度	国際科学イノベーション棟 会議室 5a
医学部（人間健康科学）	鎌田 真由美	医学研究科人間健康科学系専攻	バイオインフォマティクス、ゲノム医療、医療データサイエンス	総合研究 8 号館 演習室 2
	西山 知佳	医学研究科人間健康科学系専攻	心肺蘇生法、AED、心臓突然死、救急医療	
薬学部	三宅 歩	薬学研究科	分子生物学、発生生物学、神経科学	総合研究 8 号館 会議室 1
工学部	佐藤 亨	情報学研究科	電波工学、レーダー、イメージング	総合研究 8 号館 会議室 2
	杉野 未奈	工学研究科	建築学、耐震工学、木質構造	
農学部	山根 久代	農学研究科	果樹園芸学、植物生理学	総合研究 8 号館 講義室 4
	今村 博臣	生命科学研究科	生物物理、生化学、化学生物学、細胞生物学	
総人・文系	岩谷 彩子	地球環境学堂	文化人類学、ロマノ「ジプシー」研究	国際科学イノベーション棟 会議室 5b
総人・理系	船曳 康子	人間・環境学研究科	児童精神医学、発達行動学	総合研究 8 号館 演習室 3

学生スタッフ

グループ	氏名	所属
文学部	常盤 樹	文学部
	高橋 くるみ	文学部
教育学部	富田 一葉	教育学部
法学部	田中 茉央	法学部
経済学部	小川 早帆	経済学部
理学部	磯田 珠奈子	理学部
	東島 いずみ	理学部
医学部（医学）	向平 妃沙	医学研究科
	田端 毅大	医学部
医学部（人間健康科学）	勝島 倫子	医学研究科
薬学部	上原 茉緒	薬学部
	黒田 逸月	薬学部
工学部	西森 加奈	工学部
	切通 在菜	工学部
農学部	井上 未芙ゆ	農学部
総人・文系	寺坂 朋恵	総合人間学部（文系）
総人・理系	宮崎 瑛理香	総合人間学部（理系）

プログラム

- 10：00-10：30 受付
京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール
- 10：30-10：35 開会の挨拶
男女共同参画推進センター長
理事・副学長 稲葉カヨ
- 10：35-10：55 京都大学の紹介
理事・副学長 北野正雄
- 10：55-11：15 女性研究者の講演
「女性と仕事 ― ロマノ『ジプシー』研究と私」
地球環境学堂准教授 岩谷彩子
- 11：15-11：30 京大女子卒業生の講演
「私と京大の4.5年間」 法学部卒 高島菜芭
- 11：30-11：45 講師紹介・グループワークの説明
男女共同参画推進センター広報・相談・
社会連携事業ワーキンググループ主査 今村博臣
- 11：45-13：00 昼休憩
- 13：10-14：40 グループワーク「車座になって話そう」
高校生：講師・京大生とのグループワーク
グループワーク講師
保護者：京大生との交流 関西教育考学
- 14：40-14：50 移動、休憩
- 14：50-15：20 まとめの全体会
男女共同参画推進本部支援室長 佐藤 亨
- 15：20-15：40 入試説明会 教育推進・学生支援部 入試企画課
- 15：40-15：45 閉会、解散
- 15：45-16：30 入試に関する質疑応答（自由参加）
教育推進・学生支援部 入試企画課

連載：研究者になる！－第69回－

国際高等教育院・准教授 竹内 里欧

●人生で出会った様々な本が研究を推し進める力に

私が研究している分野は社会学です。一言で説明しようと思うと難しいですが、社会が抱える問題や現象、人間の社会的な生活などを幅広く追究する学問なので、教育や文化、歴史に産業と、いろいろなアプローチの仕方があります。

私には二つ研究テーマがありまして、一つ目は、ナショナリズムと「文明化」の関係というテーマで、博士論文では、西洋のまなざしの中で近代日本社会がどのように自画像を描いていったかということ进行分析しました。たとえば、注目した現象として、新渡戸稲造による「武士道」のブームがあります。新渡戸は、1899年に『武士道』を英語で出版し、「文明化」された「東洋の代表者」たる日本にふさわしいジェントルマンシップとして「武士道」を再構築しました。彼は何故この本を書いたのか、そこにはどのような戦略がひそんでいたのか、また、その戦略にはどのような陥穽や危うさがあったかということ进行分析しています。これに関しては、芥川の有名な小説「手巾」が研究を推し進める力となりました。「手巾」には新渡戸をモデルにした人物が戯画化して描かれているのですが、物語の最後、主人公は得体の知れない「不安」にとらわれます。この、芥川が暗示した不安は何かという謎が、分析をする上でのヒントともなっています。

そして、二つ目は、大正～昭和初期頃の家庭小説・佐々木邦の作品分析です。文化社会的な見地から、描かれた子どもや家庭のイメージを読み解いています。実は、佐々木の作品に出会ったのは小学1年生の時です。父が文系の研究者だったこともあって、家の本棚にはいろんな書籍があふれていました。そこにあった1冊が佐々木の『苦心の学友』でした。リベラルな雰囲気、上質のユーモアなど、子どもながらも面白くずっと心に残っていました。大人になって評伝的な興味から調べてみると、ユーモアに満ちた家庭小説を生み出しているのに、本人の方は冗談が苦手な真面目な性格であり、

厭世的な考えや人間観を抱いているなど、背景が複雑であり、いつかもっと深く掘り下げたいと思っています。

●日々迷いつつ

とはいえ、昔から研究者になると決めていたわけではありません。文学部に入学すると、同級生には、韻を踏んだ美しい英文をすらすら書く学生、西田幾多郎の哲学についてとうとう話す学生など志高く才気にあふれる学生もちらほらいて、こういう人こそ文学部向きなんだろうなあ、私みたいなのが入るところではない、と思いました。しかし、そうした中でも、友達の影響や背伸び心で、いい本や映画、音楽などをたくさん教えてもらって味わう時間がふんだんにあったのがよかったです。

研究の過程では迷うことが多かったのですが、一つの転機となった本は、橋川文三の『日本浪漫派批判序説』でした。自分の実存的関心と思っているものが、実は非常に世代や社会的なものに拘束されているという発見、文学的潮流と社会の接点、暗い部分に目配りした人間観など、大いに刺激を受けました。そして、それまでどちらかという小説などをただ面白く読んでいたのが、分析的思考の面白さに大変スローながら思い至りました。

(私自身、目指している途上にあるのですが)研究者になるためには、もちろん努力が必要なのですが、必ずしも努力が報われるということはありません。誰にでもおすすめできるとはいええないところがあります。現在、個人的には子育て中で、時間的制約が厳しく悩みつつあります。まわりの優しさに甘えつつ研究者としていさせていただいているので、感謝を忘れず、そこでできることを一生懸命やらなくてはと思っています。

編集後記

女子高生・車座フォーラム2018を無事終えることができました。アンケートでいただいたご意見を、来年度に生かしていきます！



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/